

# 令和4年度大阪府景観審議会

## 第3回公共事業アドバイス部会 会議要旨

都市整備部 住宅建築局 建築環境課

開催日時：令和5年3月6日（月）10:00～12:00

出席委員

大阪府；田中専門委員、林専門委員、若本部長

八尾市：岡田委員

藤井寺市：加我委員、若本委員（大阪府と重複）

○フォトモンタージュで眺望を検討されているが、近景と遠景とで見る橋の大きさにあまり変化がないため、スケールを合わせた正確なシミュレーションをお願いする。

○人の視線の位置から考えると、緑化が重要になります。大和川の自然物に橋梁という人工物が入ることを和らげてくれるのが緑化だと思いますので、緑化についてご提案の通りご対応いただき、メンテナンスも含めた緑化をご検討いただきたいと思います。

○緑化において、気付かないうちに外来種を多く使った事例がよく報告されています。川の流れや風によってその種が広がることもあり、外来種の問題が近年大きく注目されているため、種のことについても検討いただき慎重に対応いただきたいと思います。在来種を選定し、単価が高くなるのであれば、面積を縮小するなど対応をしていただきたいと思います。

○景観は単に良いとされているものを足し算していくと、逆に良くなることもありますので、全体を見て、もう一度確認をしながら進めていただきたいと思います。お金をかけて、景観を良くすることも出来ませんが、単純にいらぬものを除き、シンプルにする引き算の発想もあります。

○細かな注意ポイントとしては、欄干の色を地上部と橋の上で色をどこで切り替えるかはすごく重要なため注意いただきたいと思います。

○周辺の地域だけではなく大和川や全国の事例を研究し、現場に直結するコンセプトがしっかり作られている。このような検討資料を残して、今後の土木構造物の景観形成に繋げていただきたいと思います。

- ランドマークは見えなくても心の中にはあります。直接見えないけれども、建物の向こう側にあの橋があるのだなということを、そこに住んでいる方やよく通る方が思い起こすことができれば、街の景観は変わっていくため、それを念頭に作っていただきたい。
- 例えば、近くに市街地や駅前の舗装などを橋梁に取り込むことが出来れば、市民やよく利用される方に親近感や連続感が心の中に生まれて良い。
- 予備設計の段階で、線形などの形態が景観配慮について別の可能性があるかを関係各市のガイドラインも含め、検討していただきたかった。
- 全体のバランスなど、可視面積の大きさからこの配色で良いかといった検討をしてほしい。また、既存の川の中の周辺環境に配慮して堤防をどうすればもう少し自然に近いような印象になるか形状や処理をもう少し検討していただきたい。
- 橋桁に水平に設置されている排水管に白色を採用しているがすごく気になります。利用する人の目線でこだわって処理していただければ良いものになると思います。